

教科名	地理歴史	科目名	地理B	学年	1	授業形態	必選
使用教科書・使用教材				単位数	2	授業時数	78
『新詳地理B 帝国書院』 『新詳高等地図帳 帝国書院』 『新詳地理資料集COMPLETE2021 帝国書院』							
学習目標	系統的、地誌的双方の観点を織り交ぜながら、多面的・多角的な地理的なもの見方や国際的視野を広げる。 共通試験への対応も配慮する。						
授業内容概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	1部2部地理的技能・考察 1章自然環境 1 世界の地形 2 世界の気候 3 日本の自然の特徴と人々の生活 4 環境問題 2章資源と産業 1 世界の農林水産業 2 食糧問題 3 世界のエネルギー 4 世界の工業 3章人口・村落・都市 5 第三次産業 6 世界の交通・通信 7 現代社会の貿易と経済圏		自学自習できる課題プリント・配布済の問題集を指示に従って学習する。また適宜オンデマンド、双方向などオンラインを用いた授業を実施する。 世界の地形について、営力的な視点で分類し地形の成因を考察するとともに人間生活との関わりなど幅広く、多角的視野に立って考察しながら理解を深める。			
	二期	4章生活文化・民族・宗教 1 生活文化 2 民族と宗教 3 現代社会の国家 4 民族・領土問題 3部地誌的考察 1章現代社会地域区分 2章現代社会の諸地域 1 東アジア 2 東南アジア 3 南アジア 4 西・中央アジア 5 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 6 ヨーロッパ 7 ロシア		自学自習できる課題プリントや配布済の問題集を指示に従って学習する。また適宜オンデマンド、双方向などオンラインを用いた授業を実施する。 各地域について、地形と気候、自然、歴史、文化、民族、宗教、農林水産業、経済と経済圏、諸地域との関わりなど幅広く、多角的視野に立って考察しながら理解を深める。 大きな地理的展開を理解し地理的考察力を深めるとともに、詳細な部分の理解にも努める。 さらに難関大学の受験に対応できる学力を身につけるために、自ら考察を深め自身の言葉で各事項を表現できるようにする。			
	三期	8 アングロアメリカ 9 ラテンアメリカ 10 オセアニア 3章現代世界と日本 1 現代世界に関わる日本		自学自習できる課題プリントや配布済の問題集を指示に従って学習する。また適宜オンデマンド、双方向などオンラインを用いた授業を実施する。 国際協力、組織などを学習し、結びつきを学ぶ。近隣諸国との関係を歴史・経済・文化交流の観点から考えさせる。			
評価の観点と方法	評価は、定期考査・小テストを中心に、課題の提出状況など平常の学習活動も評価の対象とする。						

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	学年	2年	授業形態	必修
使用教科書・使用教材				単位数	2	授業時数	78
『詳説世界史B』（山川出版社） 『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社） 『総合マスター世界史B』（浜島書店）							
学習目標		現在の世界が歴史的に形成されてきた過程を知るとともに世界の各文化圏の特色を理解し、幅広い視野と考察力を養い、国際理解を深め、社会の一員として積極的に生きていこうとする姿勢を育む					
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一	先史 古代	1. オリエン特世界 2. ギリシア世界 3. ローマ帝国と地中海世界 4. インド・東南アジアの文明 5. 中国を中心とした東アジア世界	各地で文明が起き、各文明世界が形成されていった過程について理解し、世界史の大きな源流となった古代オリエン特文明、古代ギリシア文明、古代ローマ文明、中国文明などの古代世界の形成について考察する。特に、ヨーロッパ文明の二大源流であるヘレニズムとキリスト教について知り、他教科にもつながる教養を深め、「民主主義」といった現代とのつながりについて考える機会をつくり、歴史を未来に活かそうとする姿勢を育む。 また、日本もその一員である東アジア文化圏の形成については、「儒教」「仏教」など他教科につながる教養を深め、日本史への影響についても考察する。 その後、イスラーム世界の形成について考察し、現代世界を考える上でも重要な、イスラーム教、イスラーム世界の特徴を理解し、教養を深め、東西文明の交流・融合に大きな役割を果たしたイスラーム文明の世界史的な意義について理解する。 学習にあたっては、地図を活用して地理的感覚も養う。			
		中世					
	二	4. 西ヨーロッパ世界の形成と発展 5. 東ヨーロッパ世界の形成と発展 6. 西ヨーロッパ世界の変容	中世ヨーロッパ世界の形成と展開について、「キリスト教」「議会の形成」など現代世界につながるテーマについて考察し、理解する。ヨーロッパ世界の考察の際は地図を活用して、都市、商業圏などの空間認識も育む。ヨーロッパ世界とイスラーム世界などとの、各文明間の抗争、交流の活発化が次の時代につながったことも考えさせる。 近世史の学習にあたっては、世界史全体の流れと各時代の時代像についてまず確認し、人類史上の「近代」の意味を問うことを導入とする。そして、ヨーロッパの拡大を背景とする諸地域世界の一体化が進み、近代社会が形成されていった過程を大きな流れで捉えさせ、文化の多様性・複合性や相互に諸地域世界の一体化が進み、現代のグローバルな社会が形成されていった過程を大きな流れの中で理解させる。 近世ヨーロッパ史の学習の中では、美術史・音楽史・科学史・文学史などの他教科に関連する話題を取り上げ、生徒の興味・関心を高め、教養を深める。また、「世界の一体化」に関しては、ジャガイモ・コーヒー・砂糖・綿織物といった身近な文物との関連を切り口にし、歴史が現代の生活文化につながっていることを感じさせる授業を工夫する。そして、地図を活用して、視覚的に「世界の一体化」「グローバル化」の理解を深める。 近代史については、「近代」の人類史上の意義について、「民主主義」「ナショナリズム」「自由主義」「資本主義」などのテーマを切り口に考察していく。そして、近代世界の中の日本史という視点についても考える機会とする。				
		近代					1. 二重革命の時代 2. ウィーン体制 3. 国民国家の形成 4. アジアの近代
三	現代	1. 帝国主義と欧米列強の世界進出 2. 第一次世界大戦とロシア革命 3. ヴェルサイユ体制と欧米諸国 4. 世界恐慌とファシズム諸国の台頭と侵略 5. 第二次世界大戦 6. 戦後の東西対立と第三世界の形成 7. 冷戦終結と現代	現代社会の直接の起源である帝国主義時代以降の歴史的展開について、「大衆社会」「小さな政府と大きな政府」などの現代の公共圏で議論されるテーマを軸に考察し、これからの未来を創っていく生徒の、公民としての基盤を養う。 「世界大戦」「世界恐慌」などの現代の諸課題について考察し、歴史学習をふまえて、「グローバル化」「環境問題」などの地球規模の課題について自ら考え、社会の一員として積極的に生きていこうとする姿勢を育んでいく。				
評価の観点と方法		現代世界の形成の歴史的過程と世界の歴史における各文化圏の特色について理解し、歴史的思考力を培い、国際理解を深めることができたかを、5回の定期考査、提出物、日常の授業における態度などにより総合的に判断し、評価する。					

教科名	地理歴史	科目名	日本史B
使用教科書・使用教材			
『詳説日本史B』（山川出版社） 『詳説日本史図録』（山川出版社）			

学年	授業形態
2年	必修

単位数	授業時数
2	78

学習目標	日本の歴史を広く世界史的視点に立って、政治・経済・文化などの歴史を近現代史を中心に総合的に理解させ、歴史的思考力を養う。あわせて生徒のめざす難関大学の受験の学力向上を目指す事を目標とする。
------	--

授業内容の概要	学期	単元名・学習内容	学習方法・留意事項・具体的な学習目標等
	一 学 期	原始古代	1. 日本文化のあけぼの 2. 律令国家の形成 3. 貴族政治と国風文化
中世		4. 中世社会の成立 5. 武家社会の成長	
近世		6. 幕藩体制の確立 7. 幕藩体制の展開 8. 幕藩体制の動揺	中世社会及び近世社会について、政治の流れを概観し、封建社会の特色を理解する。その際広く世界史的視野に立つことを重視する。社会経済史や文化については、詳細な説明にこだわらず、大きな歴史の発展や特徴について理解を深めるようにする。
二 学 期	近代・現代	9. 近代国家の成立 (1) 開国と幕末の動乱 (2) 明治維新と富国強兵 (3) 立憲国家の成立と日清戦争 (4) 日露戦争と国際社会 (5) 近代産業の発展	幕末以降の近現代史について、世界の中の日本という視野に立って、近代立憲体制の成立や日本の発展、第二次世界大戦の経緯や敗戦、戦後の民主的な政治などについて概観する。社会経済史においては、税制度や金融制度、産業の発展などについて、基礎的な部分の理解を中心に授業を進める。近代文化については、欧米諸国との関係に着目するとともに日本文化の再評価などにも注意を促しながら、諸文化の特徴を概観するようにする。
	10. 近代日本とアジア (1) 第一次世界大戦と日本 (2) ワシントン体制 (3) 市民文化 (4) 恐慌の時代 (5) 軍部の台頭 (6) 第二次世界大戦		
三 学 期	近代・現代	11. 占領下の日本 12. 高度成長の時代 13. 激動する世界と日本	第二次世界大戦後の歴史について、世界の中の日本という視野に立って、敗戦や占領、戦後の民主的な政治などについて概観する。社会経済史においては、産業構造の変化や経済の発展などについて、基礎的な部分の理解を中心に授業を進める。近代文化については、欧米諸国との関係に着目するとともに、諸文化の特徴を概観するようにする。
一年間のまとめ			

評価の観点と方法	評価は、学期ごとに実施される5回の定期考査、小テストとともに、出欠席・課題の提出など、平常の学習活動も評価の対象とする。
----------	--

教科名		地理歴史	科目名	(必修選択)世界史B	学年	3	授業形態	必修選択
使用教科書・使用教材					単位数	6	授業時数	234
『山川出版社 詳説世界史B 改訂版』 『浜島書店 ニューステージ世界史詳覧』 『浜島書店 総合マスター世界史B』								
学習目標		現在の世界が歴史的に形成されてきた過程を知るとともに世界の各文化圏の特色を理解し、幅広い視野と歴史的な思考力を養い、国際社会の一員として生きていこうとする姿勢を育む。また、演習を通して大学入試に対応できる学力の向上を図る。						
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等				
	一学期	先史の世界 オ 南アジアの古代文明 東アジア世界の形成と 内陸アジア世界		先史の時代・古代オリエント世界 ギリシア・ローマ世界・イラン文明 アジアの古代文明 北方民族の活動と中国の分裂 東アジア諸地域の自立化 モンゴル民族の発展 東アジア・東南アジア世界の動向 古代史について、基本的な事項・事柄を精選して授業内容を構成し、各文明世界の特徴を理解させる。また、各文明世界同士の交流についても考察する。学習にあたっては、事項をただ暗記するだけでなく、説明をできるように指導し、思考力・判断力に加えて、表現力を育む。				
	二学期	イスラーム世界の形成と発展 ヨーロッパ世界の形成と発展 帝国主義とアジアの民族運動 二つの世界大戦		イスラーム帝国の成立 イスラーム帝国の発展 インド・東南アジア・アフリカのイスラーム 西ヨーロッパ世界 東ヨーロッパ世界 西ヨーロッパ世界の変容 帝国主義と列強の展開 世界分割と列強対立 第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 第二次世界大戦 中世の各地域世界の特徴と相互の交流について、特徴・比較・影響などを多角的に理解できるように考察していく。また、現代世界の形成について、現在とのつながりや、日本史との関連を重視して理解を深める。学習にあたっては、事項を覚えるだけでなく、論述問題などを通じて、思考力・判断力・表現力を高めていく。				
	三学期	テーマ史 大学入試対策		重要テーマ史 大学入試対策問題演習 問題演習と入試で問われる重要テーマ史の確認を行い、大学入試に対応できる応用力を完成させる。				
評価の観点と方法		現代世界の形成の歴史的過程と世界の歴史における各文化圏の特色について理解出来たか、また歴史的思考力を培うことが出来たか、更には、その基礎となる歴史用語・歴史的事項を理解できたかを、定期考査、小テスト、提出物、学びに向かう態度や姿勢などにより総合的に判断し評価する。						

教科名		地理歴史	科目名	(自由選択)世界史B	学年	3	授業形態	選択
使用教科書・使用教材					単位数	2	授業時数	78
『山川出版社 詳説世界史B 改訂版』 『浜島書店 ニューステージ世界史詳覧』 『浜島書店 総合マスター世界史B』								
学習目標		現在の世界が歴史的に形成されてきた過程を知るとともに世界の各文化圏の特色を理解し、幅広い視野と歴史的な思考力を養い、国際社会の一員として生きていこうとする姿勢を育む。また、演習を通して大学入試に対応できる学力の向上を図る。						
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等				
	一学期	欧米における近代社会の成長 欧米における近代国民国家の発展		産業革命 アメリカ独立革命と発展 フランス革命とナポレオン時代 ウィーン体制とヨーロッパの再編 19世紀欧米の文化 近代とは何かという問いについて、市民革命・ナショナリズム・自由主義・資本主義などをキーワードに考察し、理解を深めていく。歴史的事項の単なる暗記だけでなく、史実を通して歴史の意味を説明できるように指導する。				
	二学期	帝国主義とアジアの民族 二つの世界大戦		帝国主義と列強の展開 世界分割と列強対立 アジア諸国の改革と民族運動 第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 第二次世界大戦 現代世界の形成と展開について、現在の時事的な課題との関連を重視して考察していく。世界史の中の日本という視点も重視していく。学習にあたっては、論述問題等も活用して、現代世界を多角的に理解し、思考力・判断力に加えて表現力も育む。				
	三学期	問題演習 テーマ史学習		大学入試対策問題演習 重要テーマ史 大学入試対策の問題演習と重要テーマ史演習を通して、大学入試に対応できる実践的な応用力の完成を図る。				
評価の観点と方法		問題演習を通じ、現代世界の形成の歴史的過程と世界の歴史における各文化圏の特色について理解出来たか、また歴史的思考力を培うことが出来たか、更には、その基礎となる歴史用語・歴史的事項を理解できたかを、小テスト、提出物、学びに向かう態度や姿勢などにより総合的に判断し評価する。						

教科名	地歴公民	科目名	(必修選択) 日本史B	学年	3年	授業形態	必修選択
使用教科書・使用教材				単位数	6	授業時数	234
『詳説日本史B』(山川出版社) 『詳説日本史図録』(山川出版社) 『新詳説日本史史料集』(実教出版) 『日本史用語集』(山川出版社) 『日本史100題』(Z会) 『日本史重要語句Check List 2021』(啓隆社)							
学習目標		日本の歴史を広く世界史的視点に立って、政治・経済・文化などの歴史を中心に総合的に理解させ、歴史的思考力を養う。あわせて生徒のめざす難関大学の受験の学力向上を目指すことを目標とする。					
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	原始古代	1. 日本文化のあけぼの 2. 律令国家の形成 3. 貴族政治と国風文化	前近代(特に中世以降を中心とする)の日本史を政治史・社会経済史・文化史を中心に、広く世界史的視野に立って考察しながら理解を深める。詳細な部分よりは大きな歴史的展開を理解し、歴史的考察力を深める。 さらに難関大学の受験に対応できる学力を身につけるために、自ら考察を深め自身の言葉で各事項を表現できるようにする。			
		中世	4. 中世社会の成立 5. 武家社会の成長				
		近世	6. 幕藩体制の確立 7. 幕藩体制の展開 8. 幕藩体制の動揺				
二学期	近代	9. 近代国家の成立 10. 近代日本とアジア	近現代の日本史を政治史・外交史・社会経済史・文化史など幅広く、世界史的視野に立って考察しながら理解を深める。大きな歴史的展開を理解し歴史的考察力を深めとともに、詳細な部分の理解にも努める。 さらに難関大学の受験に対応できる学力を身につけるために、自ら考察を深め自身の言葉で各事項を表現できるようにする。				
	現代	11. 占領下の日本 12. 高度成長の時代 13. 激動する世界と日本					
要	三学期	特別編成授業を実施 テーマ史及び入試問題演習		早慶上智など難関私大、国公立大学の論述問題などに対応できる実力を養成する。論述問題については随時添削指導を実施する。			
評価の観点と方法		評価は、定期考査・小テストを中心に、課題の提出状況など平常の学習活動も評価の対象とする。					

教科名	地歴公民	科目名	(自由選択)日本史B	学年	3年	授業形態	選択
使用教科書・補助教材				単位数	2	授業時数	78
『詳説日本史B』(山川出版社) 『詳説日本史図録』(山川出版社) 『新詳述日本史史料集』(実教出版) 『日本史用語集』(山川出版社) 『日本史100題』(Z会) 『日本史重要語句Check List 2021』(啓隆社)							
学習目標		日本の歴史を広く世界史的視点に立って、政治・経済・文化などの歴史を中心に総合的に理解させ、歴史的思考力を養う。あわせて生徒のめざす難関大学の受験の学力向上を目指すことを目標とする。					
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一	原始古代	1. 日本文化のあけぼの 2. 律令国家の形成 3. 貴族政治と国風文化	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ史など復習用のプリント随時配布し、考察・理解を深める。 ・問題集や問題プリントに実践的に取り組み、さらに解説・解答を通して理解を深め、難関大学の受験問題に対応する実力を養成する。 ・随時、小テスト実施し知識の定着を図る。 			
	学	中世	4. 中世社会の成立 5. 武家社会の成長				
	期	近世	6. 幕藩体制の確立 7. 幕藩体制の展開 8. 幕藩体制の動揺				
二	近代	9. 近代国家の成立 10. 近代日本とアジア	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ史など復習用のプリント随時配布し、考察・理解を深める。 ・問題集や問題プリントに実践的に取り組み、さらに解説・解答を通して理解を深め、難関大学の受験問題に対応する実力を養成する。 ・随時、小テスト実施し知識の定着を図る。 				
学	現代	11. 占領下の日本 12. 高度成長の時代 13. 激動する世界と日本					
期							
要	三	特別編成授業を実施 テーマ史及び入試問題演習		早慶上智など難関私大、国公立大学の論述問題などに対応できる実力を養成する。論述問題については随時添削指導を実施する。			
評価の観点と方法		評価は、小テストを中心に課題の提出状況など平常の学習活動を評価の対象とし、必修選択と合わせて行う。					

教科名	地理歴史	科目名	(必修選択)地理B	学年	3	授業形態	必選
使用教科書・使用教材				単位数	4	授業時数	156
『新詳地理B 帝国書院』 『新詳高等地図帳 帝国書院』 『新詳地理資料集COMPLETE2019 帝国書院』 『2021データブック オブ・ザ・ワールド 二宮書店』 『地理用語集 山川出版社』 『2022センター試験実戦問題集 地理B 代ゼ』							
学習目標	系統的、地誌的双方の観点を織り交ぜながら、多面的・多角的な地理的なもの見方や国際的視野を広げる。 共通試験への対応も配慮する。						
授業内容概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	1部2部地理的技能・考察 1章自然環境 1 世界の地形 2 世界の気候 3 日本の自然の特徴と人々の生活 4 環境問題 2章資源と産業 1 世界の農林水産業 2 食糧問題 3 世界のエネルギー 4 世界の工業 3章人口・村落・都市 5 第三次産業 6 世界の交通・通信 7 現代社会の貿易と経済圏		自学自習できる課題プリント・配布済の問題集を指示に従って学習する。また適宜オンデマンド、双方向などオンラインを用いた授業を実施する。 世界の地形について、営力的な視点で分類し地形の成因を考察するとともに人間生活との関わりなど幅広く、多角的視野に立って考察しながら理解を深める。大きな地理的展開を理解し地理的考察力を深めとともに、詳細な部分の理解にも努める。			
	二学期	4章生活文化・民族・宗教 1 生活文化 2 民族と宗教 3 現代社会の国家 4 民族・領土問題 3部地誌的考察 1章現代社会地域区分 2章現代社会の諸地域 1 東アジア 2 東南アジア 3 南アジア 4 西・中央アジア 5 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 6 ヨーロッパ 7 ロシア 8 アングロアメリカ 9 ラテンアメリカ 10 オセアニア		自学自習できる課題プリントや配布済の問題集を指示に従って学習する。また適宜オンデマンド、双方向などオンラインを用いた授業を実施する。 各地域について、地形と気候、自然、歴史、文化、民族、宗教、農林水産業、経済と経済圏、諸地域との関わりなど幅広く、多角的視野に立って考察しながら理解を深める。大きな地理的展開を理解し地理的考察力を深めとともに、詳細な部分の理解にも努める。 さらに難関大学の受験に対応できる学力を身につけるために、自ら考察を深め自身の言葉で各事項を表現できるようにする。			
	三学期	特別授業 共通試験問題演習		自学自習できる課題プリントや配布済の問題集を指示に従って学習する。また適宜オンデマンド、双方向などオンラインを用いた授業を実施する。 論述問題などに対応できる実力を養成する。個々の生徒の状況に合わせた演習・課題等を実施する。			
評価の観点と方法	評価は、定期考査・小テストを中心に、課題の提出状況など平常の学習活動も評価の対象とする。						

教科名	地理歴史	科目名	(自由選択)地理B	学年	3	授業形態	選択
使用教科書・使用教材				単位数	2	授業時数	78
『新詳地理B 帝国書院』 『新詳高等地図帳 帝国書院』 『新詳地理資料集COMPLETE2019 帝国書院』 『2021データブック オブ・ザ・ワールド 二宮書店』 『地理用語集 山川出版社』 『2022センター試験実戦問題集 地理B 代ゼ』							
学習目標	系統的、地誌的双方の観点を織り交ぜながら、多面的・多角的な地理的なものの見方や国際的視野を広げる。 共通試験への対応も配慮する。						
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	1部2部地理的技能・考察 1章自然環境 1 世界の地形 2 世界の気候 3 日本の自然の特徴と人々の生活 4 環境問題 2章資源と産業 1 世界の農林水産業 2 食糧問題 3 世界のエネルギー 4 世界の工業 3章人口・村落・都市 5 第三次産業 6 世界の交通・通信 7 現代社会の貿易と経済圏		自学自習できる課題プリント・配布済の問題集を指示に従って学習する。適宜オンデマンド、双方向などオンラインを用いた授業を実施する。 世界の地形について、営力的な視点で分類し地形の成因を考察するとともに人間生活との関わりなど幅広く、多角的視野に立って考察しながら理解を深める。			
	二学期	4章生活文化・民族・宗教 1 生活文化 2 民族と宗教 3 現代社会の国家 4 民族・領土問題 3部地誌的考察 1章現代社会地域区分 2章現代社会の諸地域 1 東アジア 2 東南アジア 3 南アジア 4 西・中央アジア 5 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 6 ヨーロッパ 7 ロシア 8 アングロアメリカ 9 ラテンアメリカ 10 オセアニア		自学自習できる課題プリントや配布済の問題集を指示に従って学習する。また適宜オンデマンド、双方向などオンラインを用いた授業を実施する。 各地域について、地形と気候、自然、歴史、文化、民族、宗教、農林水産業、経済と経済圏、諸地域との関わりなど幅広く、多角的視野に立って考察しながら理解を深める。大きな地理的展開を理解し地理的考察力を深めるとともに、詳細な部分の理解にも努める。 さらに、共通試験、難関大学の受験に対応できる学力を身につけるために、自ら考察を深め自身の言葉で各事項を表現できるようにする。			
	三学期	特別授業 共通試験問題演習		自学自習できる課題プリントや配布済の問題集を指示に従って学習する。 また適宜オンデマンド、双方向などオンラインを用いた授業を実施する。論述問題などに対応できる実力を養成する。個々の生徒の状況に合わせた演習・課題等を実施する。			
評価の観点と方法	評価は、定期考査・小テストを中心に、課題の提出状況など平常の学習活動も評価の対象とする。						